

職員提言会議の提言内容について（報告）

職員提言会議（主事・主任、主査級グループ、保育士・幼稚園教諭グループ、消防職員グループ）の提言内容について報告するもの。市民委員会や策定ワーキングの検討材料の一つとする。

主な提言内容

主事・主任級職員グループ	テーマ：人口減少に対する政策・施策について
開催日時 H27年3月13日（金）午後2時～午後5時	
メンバー構成 8人（主事5人主任3人、男4人女4人）	
【提言内容】	
1 行政が価値観（結婚観や家族観）を変えることは難しいが、子どもを希望する夫婦が金銭面の不安や、女性の社会進出による時間的制約などを理由に子どもを持つことを諦めることなく、出産後も今の環境（共働き）を維持し夫婦が希望する出産数を叶えるための施策。	
例）保育園の無料化、勤務地近くの保育園に通園できるような保育の取組、男性向け家庭内労働講座の実施、地域全体で子育てを支える取組	
2 名古屋市のベッドタウンとして発展してきた本市において、都会と同じ物差しではなく、多治見独自の物差しで新たな魅力を作り、日本中にその魅力について発信する施策。	
例）新しい価値観として「子育て世帯」が住みやすい等、魅力ある多治見の『○○』を日本中に発信する	
主査級職員グループ	テーマ：人口減少に対する政策・施策について
開催日時 H27年3月13日（金）午後2時～午後5時	
メンバー構成 8人（男4人女4人）	
【提言内容】	
1 核家族化の進行や近隣の間人関係の変化などにより、子育てに関する悩みを相談できず、不安を抱えている子育て世帯が増加している。子どもを産み、育てようという意識を育むためには、このような不安を解消させる必要がある。児童館や親子ひろば等の行政が準備した子育て支援施策の活用に加え、子ども会活動や自治会活動などの活性化により、子育て世代と地域が共に子育てに関わるという意識醸成をさせる施策。	
例）子ども会活動等の地域力を活かした子育てしやすい環境の整備	
2 社会増を実現するためには、多治見市が“選ばれる都市”にならないといけない。選ばれる都市とは、他の都市にはない独自の魅力を持つ都市である。多治見市は、陶磁器産業、永保寺、三の倉市民の里、かさばら潮見公園など魅力があ	

る。これらの魅力を多治見市内外に強くアピールする施策。

例) 多治見市の魅力の発信

保育士・幼稚園教諭グループ テーマ：子育て・子育ての政策・施策について

開催日時 H27 年 1 月 7 日 (水) 午後 3 時～午後 5 時 15 分

メンバー構成 14 人 (7 人×2 グループ、保育士 8 人幼稚園教諭 6 人、男 1 人女 13 人)

【提言内容】

1 親子の良好な関係を築くため、親子の時間を大切にする取組を行う。

例) ・土日保育の必要性を見極め、土日保育利用者は平日の保育を減らす。

・親の意識向上の取組として、乳幼児健診などに児童館職員が同席し、児童館を身近な施設として利用促進を呼び掛ける。

2 母親の孤立感を解消するため、父親が育児に参加する取組を行う。

例) ・子育てへの関わり方のわからない父親の相談する場・集まる場をつくる。

⇒園単位で父親に積極的に働きかけ父親同士の交流会の開催、地域イベント等において父親と地域をつなげる

・中高生男子の保育園実習等により、父親体験を行う。

消防職員グループ テーマ：地域防災力の政策・施策について

開催日時 H27 年 2 月 23 日 (月) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 50 分

メンバー構成 8 人 (4 人×2 グループ、男 8 人女 0 人)

【提言内容】

1 市民の災害に対する意識は低いため、継続的に市民に訴えることが重要であり、「危機感」が芽生える取組を行う。

例) 被災者による講話、広報たじみ等に被災者の体験記

2 災害時、中高生の活躍は重要視されており、防災教育を子どもに行うことで、子どもから家族へ、家族から地域へ防災意識を広げる。

例) 更新する備蓄食料を使った親子参加型イベント

3 地域を引っ張るリーダーを育てる。

例) 防災士の育成、消防職員 O B の活用、市職員の消防団加入